

水守龜之助 （みづもり かつのすけ） 小説家。明治十九年六月二十一日兵庫縣生れ、昭和二十二年十一月十五自殺（八六一九五）。筆名鬼耳生、大江太刀夫、新免龜之助、木村恭助、水守ひさし、水守夕雨、水守生、水守郊村、水守青夜、淡淡亭、陌川等。大阪の醫學校を中退し、明治二十九年上京。大正八年春陽堂に入り雑誌『中央文學』記者、八年新潮社に轉じこの『新潮』編輯記者。のち人文會出版部、隨筆社を経営し、出版、雜誌發行に當る。

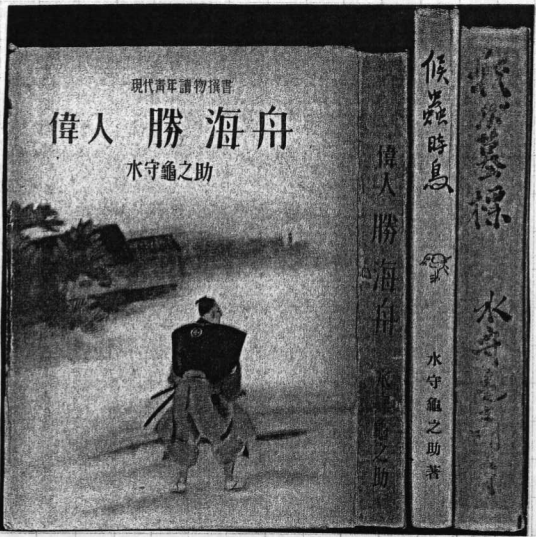
著書『歸れる父』（大正九年一月）『二十三年新潮社「新進作家叢書」』、『愛着』（大正十年五月）『二十一年新潮社』、『戀愛時代「新しき岸へ」』、『大正十一年十月五日新潮社』、『花枕』（合著・後藤誠雄編、大正十二年二月）『二十五日聚英閣「現代傑作選集」』、『扇を歩く』（大正十二年五月十四日新潮社「中篇小説叢書」）、『少年の頃・中巻』

（合著・小野誠悟編、大正十四年五月）『二十日第一出版協會「少年少女文藝叢書」』、『愛し難る』（大正十四年九月十五日大阪屋號書店）、

『正白白寫著「白寫隨筆集」』（編、大正十五年）二月六日人文會出版部「明治大正隨筆選集」、『我が基標』（大正十五年九月十五日大阪屋號書



店）、『續プロ作家』



『最近傑作選集』（合著・小崎今朝潮編、大正十五年十一月二十一日解放社「解放洋書」）、『候蟲時

鳥』（昭和二年）一月二十八日人文會出版部「日本エッセイ叢書」）、

